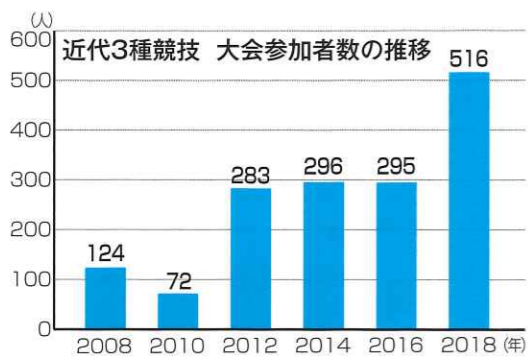


「キング・オブ・スポーツ」と呼ばれる複合競技。

日本では、1964年の東京オリンピックにこの競技を採用すべく、選手の育成を目的として、1955年に「公益社団法人日本近代五種協会」の前身である「日本近代五種競技協会」が発足しました。現在ではレーザーピストルが使われているレーザーランの射撃も、当時は火薬銃で行われていたため、警察官や自衛隊員を中心に選手が育成されました。

2010年に使用銃がレーザーピストルに変更されて以降、注目度が高まっている他、同協会が近代五種の登竜門といわれる「近代3種」(水泳、射撃、陸上)の普及に注力していることもあり、その競技人口は増えつつあります。従来、日本は「Cクラス」(国際大会に参加できるレベル)といわれていま



近代3種は、近代五種競技の登竜門として位置付けられており、「公益社団法人日本近代五種協会」では、全国で大会を実施。その参加者は着実に増えつつある。<資料提供 公益社団法人日本近代五種協会>

だが、現在では女子が「Bクラス」(入賞が狙えるレベル)、男子が「Cクラス」と「Cクラス」の間といわれており、さらなる底上げが期待されています。

Position of Japan

日本のポジション



近代五種

Modern Pentathlon

Prime Sportsナビ

注目のスポーツと期待の選手をご紹介します。

Rules & Highlights

ルールと見どころ

近代五種は、1人の選手が1日をかけてフェンシング、水泳、馬術、レーザーラン(射撃とランニング)の五種目をこなす複合スポーツです。それぞれの種目には点数が与えられ、最終競技のレーザーランは、それまでの種目の合計点の得点差を1点1秒として、上位の選手からスタート。ゴールした順番がそのまま最終の順位となります。国際大会には、男女とも個人・団体・リレーの形式があり、大会によって選ばれる形式が異なります。

近代五種の魅力は、1人の選手が様々な技術や戦略を駆使しながら、異なるタイプの種目を次々とこなす、速さや得点を競うところにあります。その過酷さと華やかさが、「キング・オブ・」

- フェンシング** 全身のどこを突いても得点となる「エペ」と呼ばれる種目で、1分間1本勝負の総当たり戦で行います。勝率70パーセントを250点とし、得点が増減します。
- 水泳** 200メートル自由形で行われます。2分30秒を250点とし、0.5秒につき1点(1秒ごとに2点)得点が増減します。
- 馬術** 障害が設置されたコースを通過する「障害飛越競技」を、抽選で割り当てられた貸与馬で行います。得点は300点満点からの減点方式です。
- レーザーラン(射撃とランニング)** 50秒の制限時間内にレーザーピストルで的に5回命中させた後、800メートルのランに移ります。これを4回行います。

スポーツ」と称される所以です。では、それぞれの種目のルールをご紹介します。

History

歴史

近代五種の生みの親は、1894年、古代オリンピックにならった近代オリンピックの開催を提唱し、のちに「近代オリンピック」の父と呼ばれることになるフランスのクーベルタン男爵です。古代アテネオリンピックの五種競技(レスリング・円盤投・やり投・走幅跳・短距離走)にちなみ、新たな五種競

技を選定しました。その後、軍隊のトレーニングのために採用され、ヨーロッパを中心に普及しました。現在でも、ヨーロッパでは大きな人気を博していて、専門のクラブも多く、近代五種に取り組むなかから他の競技に進む選手も少なくないなど、様々なスポーツのベースとなっています。

Attention Player

注目の選手



しげはら 繁原ひなの
Hinano Shigehara

日本体育大学 体育学部体育学科1年。岡崎市立葵中学校を経て、日本体育大学在原高校体育コースへ進学。2015年および2016年「近代3種日本選手権大会in千葉 兼 JOCジュニアオリンピックカップ」優勝、2018年「第3回ユースオリンピック」出場。

国際大会で決勝に残ることができる選手を目指します。

幼い頃から水泳を習い、小学生の頃から長距離走に取り組んでいました。中学2年生の時に、地元のア知県で開催された近代3種大会の新聞記事で母から見せてもらったことを契機に、近代五種に興味を持つようになりました。はじめて参加した愛知県の近代3種大会では、4位に入賞したと記憶しています。その時は、ゴールした後倒れこむほど疲れたことを覚えて

近代五種の魅力は、異なる競技を続けるなかで順位が目まぐるしく変わり、得意な競技でそれまでの遅れを挽回できること。私は「レーザーラン」が得意で、水泳での遅れをランニングで取り戻したこともありました。結果が出せなかった場合など、種目ごとに気持ち切り替えることが大切です。

います。その後、練習を重ね、中学3年生の時から「近代3種日本選手権大会in千葉 兼 JOCジュニアオリンピックカップ」で2連覇を果たすことができました。

今はまだ、国際大会で決勝に進めないことが多いので、今後は予選を勝ち進んで決勝に残り、さらに上を目指せる選手になりたいと考えています。そのためには、国内では常に上位に食い込む成績を残していきたいですね。

BizPrime

[ビズプライム]

ビジネスの本質に迫るマネジメント情報誌

2019

05

第49号

特集

もはや世界的な潮流 キャッシュレス時代にどう対応する？

企業
レポート

多角化経営で躍進する企業

株式会社「ASTEAD」・企業グループ「ヤマチユナイテッド」

新連載

プライム・スポーツナビ

近代五種「キング・オブ・スポーツ」と呼ばれる複合競技。



一生涯のパートナー

第一生命

Dai-ichi Life Group